

「鳥獣被害対策」の取り組みについて

1 これまでの取り組み（成果）

- ・平成 24 年度の抜本強化以降、防護柵設置による「守り」と捕獲による「攻め」の両面から対策を強化。
- ・「守り」では、被害ゼロを目指して集落ぐるみで取り組むモデル集落を育成、平成 30 年度からは、被害集落の半減に向けて 3 年間で 500 集落の支援を実施し、第 1 期等で合意した集落へのフォローアップを実施。
- ・「攻め」の捕獲では、シカの年間捕獲目標 3 万頭の達成に向けて、狩猟者の確保と育成、くくりわなの無償配付や捕獲報償金の支援などで捕獲対策を強化。

【成果】

- ・被害額は減少傾向、シカ・イノシシとも捕獲頭数が大幅に増加。
- ・平成 30 年度に 170 集落を支援 → 合意形成：150 集落（合意形成率 88% 2 月末現在）

2 課題

- ・被害額は 2 億円近くで依然として高い状況にあり、引き続き支援を必要とする深刻な被害集落が 700 集落存在（平成 29 年度）。また、これまで支援して合意形成した集落へのフォローアップのほか、被害額は減少しているものの被害割合の増加しているサル対策が課題。
- ・シカの捕獲頭数は、目標 3 万頭の 7 割程度で平成 27 年度から捕獲数の伸びが鈍化。捕獲の 8 割を占めるわな猟に重点を置いた捕獲の強化と、生息数が減少し生息域が拡大したことで、広域化・低密度化により捕獲しづらくなったシカの効果的な捕獲方法の検討が課題。

3 今後の取り組みの方向性

- (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けたわな猟の強化

4 令和元年度の取り組み

- (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化
 - ・野生鳥獣に強い高知県づくり第 2 期の推進
平成 30 年度から 3 年間で 500 集落を支援（目標：合計 1,000 集落の被害ゼロ）
令和元年度支援集落：170 集落程度
 - ・第 1 期等で合意した集落へのフォローアップの実施
（平成 30 年度フォローアップ対象集落：102 集落）
 - ・野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金によるシカ用防護柵やサル総合対策の実施
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けたわな猟の強化
 - ・狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ
 - ・狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進
 - ・ICT を活用したくくりわなによる新たなシカ捕獲の実証実験
 - ・捕獲した鳥獣の有効活用を推進するため、官民協働による研究会活動やジビエフェアの開催
 - ・安定供給の体制づくりを目指した処理施設への搬入や処理施設での産業廃棄物の処理を支援

被害「ゼロ」を達成した集落での成功事例を県内に波及する野生鳥獣に強い高知県づくりを進め、人材の育成や狩猟者の確保、獣肉の活用など、総合的な対策を推進

守り

防除 (防護柵の設置などの防除)

捕獲 (わなや銃による捕獲)

攻め

野生鳥獣に強い高知県づくり「第2期」の推進

- ◆被害「ゼロ」を達成した集落の成功事例を普及・拡大するため、被害の深刻な集落を対象に3年間で500集落を支援し、対策への合意形成を推進
- 【第1期(H27～29年度)】572集落を支援 → 500集落で合意形成(87%)
- 【第2期(H30～R2年度)】引き続き3年間で500集落を支援 → 目標:合計1,000集落の被害ゼロ(H30年度:170集落を支援 → 150集落で合意形成(2月末現在)・累計650集落)
- ◆第1期等で合意した集落のフォローアップも実施

集落ぐるみの被害対策について合意形成を支援



総合支援

①鳥獣被害対策専門員配置事業委託料

- ◆鳥獣被害対策の総合的な窓口として (45,888千円)
- 野生鳥獣に強い高知県づくりを推進(4JA16名)

被害の深刻な集落を対象に3年間で500集落を支援



これまでの合意形成集落もすっかりフォロー

※推進チーム(鳥獣被害対策専門員・市町村・鳥獣対策課・農業振興センター・林業事務所等)による総合的な支援を実施

②野生鳥獣に強い県づくり事業委託料

- ◆鳥獣被害対策専門員の活動を野生動物の専門家として科学的にバックアップ (3,100千円)
- 専門知識で被害対策への科学的助言等を実施



⑤鳥獣被害対策地域リーダー育成事業

- ◆正しい対策を指導できる人材を育成 (1,505千円)
- するための研修会(市町村やJA等の新任職員向け研修)



③鳥獣被害防止総合対策交付金 (国費)

- ◆被害防止計画に基づき事業に取り組む市町村有害鳥獣被害対策協議会等に交付 (407,536千円)
- ①推進事業(1/2以内、定額) 捕獲機材の購入、捕獲報償金等
- ②整備事業(1/2以内、5.5/10以内、定額) 防護柵の設置、獣肉処理加工施設の整備等

集落ぐるみの防護柵設置を支援



・効果的な設置 ・適切な管理

④野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金

- ◆市町村の実施する防護柵の設置やサル総合対策の経費など、国の交付金の対象とならない事業について、きめ細かに支援 (21,100千円)
- ①防護柵設置事業
シカ:2/3以内(市町村1/6以上)
シカ以外:1/2以内
- ②サル総合対策事業
追い払いや環境整備:1/2以内
- ③捕獲推進事業
くくりわなの維持補修に係る経費:1/3以内(市町村1/3以上)

市町村の取り組みをきめ細かに支援



シカの年間捕獲目標「3万頭」の早期達成に向けた捕獲の強化



(1) 狩猟者の確保と育成

新規狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ

①狩猟フォーラム開催等委託料 (4,992千円)

- ・狩猟フォーラムとわな猟体験ツアーを一体的に実施することで狩猟者を確実に確保

②新規狩猟者確保事業費交付金 (3,320千円)

- ・狩猟免許取得のための予備講習会受講料(10,000円)の定額支援
- ・狩猟免許申請に必要な診断書料の定額支援(上限2,000円)
- ・銃所持のための射撃教習受講料の定額支援(上限37,000円)

③狩猟者登録促進事業 (1,190千円)

- ・未登録者等の参画促進のためのくくりわな製作講習会の開催

狩猟フォーラムや体験ツアーで捕獲の担い手を確保



未登録者等の登録促進や技術力UP



新

(2) 捕獲の推進

シカ捕獲の約8割を占めるわな猟に重点を置いた捕獲の推進と効果的な捕獲方法の検討

④シカ捕獲推進事業費補助金 (28,200千円)

- ・地域や技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援

⑤シカ個体数調整事業費交付金 (55,376千円)

- ・狩猟によるシカ捕獲に対する報償金制度で捕獲を推進

⑥指定管理鳥獣捕獲等事業委託料 (8,070千円)

- ・山岳地などの捕獲困難地域でシカ捕獲を実施

⑦効果的捕獲促進事業委託料 (9,999千円)

- ・IoTを活用したくくりわな等による新たなシカ捕獲のモニター実験を実施

⑧シカ個体数調査委託料 (1,538千円)

- ・科学的根拠に基づく捕獲計画を検討するためシカの個体数を推定

くくりわなを増やして捕獲数を底上げ



見回りなどの負担を軽減し効率的・効果的なシカの捕獲を検討



新

新

バランスのとれた総合対策の推進

支援の継続・加速化

中山間地域の暮らしや生活をしっかり守る

野生鳥獣に強い高知県づくりの強化

鳥獣被害とみんなで戦う元氣な集落



【目標】合計1,000集落の被害「ゼロ」

(3) 有効活用の推進

捕獲した鳥獣を地域の資源として有効活用を推進

⑨ジビエ活用推進事業委託料 (7,467千円)

- ・研究会活動やジビエフェアの開催等による消費の拡大
- ・安全・安心なジビエの供給に向けた狩猟者への講習会
- ・安定供給の体制づくりを目指し、処理施設への搬入や産業廃棄物の処理等を支援

地域資源の有効活用

